

イタリア建築界の巨匠 エットレ・ソットサス展

～ソットサスと仲間たちの軌跡・1980/1999～

ソットサスでどんな人？

日本初上陸

このたび、新津市美術館でイタリアのデザイナー、巨匠エットレ・ソットサスとその仲間たちの建築・デザイン展が開催されることになりました。

エットレ・ソットサス氏は、1917年生まれ。イタリア北部のまちトリノで建築を学んだあと、1947年、ミラノに建築・デザイン事務所を設立。58年、オリベッティ社（イタリア）のデザイン・コンサルタントに就任。同社のために設計したタイプライター「ヴァレンタイン」（69年）はデザイン史上、20世紀を代表する作品のひとつに数えられ、ポンビドー・センター（フランスのパリにある芸術文化の総合施設）にも大切に保管されています。また、工業デザインの傍ら、絵や写真、陶器などの個展を画廊で開催、とくに写真はプロ顔負けの腕前といわれています。

会期 平成 11 年 8 月 12 日（木）
～平成 11 年 10 月 17 日（日）

会場 新津市美術館 展示室1・展示室2・アトリウム

ソットサス・アソシエイツ

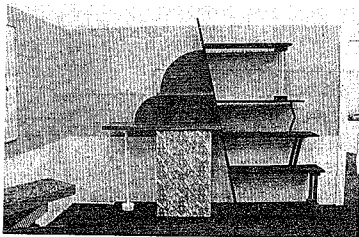


彼が率いる建築・デザイン専門集団ソットサス・アソシエイツが結成されたのは1980年。これと前後して、デザイン界では一大変革が起こりました。いわゆる「ポスト・モダン」現象がそれで、ほかならぬソットサス氏こそ、その運動の火付け役となった人物でした。スタジオ・アルキミア、メンフィスなどのグループの展示会で発表した前衛的（アヴァンギャルド）な家具、——例えば「マラバル」（81年）などの——今回展示される作品は、それまでとく機能重視に偏りがちだった近代（モダン）を、〈笑い〉や〈遊び〉の要素で翔び超えています。

どんな作品が展示されるの？

今回展示されるのは、ソットサス氏の80年以降の代表的な家具、陶器、ガラス器と、ソットサス・アソシエイツの約20年間の建築プロジェクト、インテリアデザイン、グラフィック・デザイン等のほぼ全てを網羅するドローイング約400点、建築模型及び写真です。ソットサス・アソシエイツの携わってきている事業の約半分は、海外（イタリア国外）のもので、日本での仕事もいくつかあります。

マラバル（81年）



20世紀はデザインの世紀！ 今年の夏は 新津市美術館へ！

この展覧会は今年の3月から5月までイタリア中部の小都市プラートの現代美術館で開催されていました。新津で開催されたあとは、東京、大阪に巡回します。昨年の6月から7月にかけて開催されたアキッレ・カステリオーニ展と同様、今世紀を代表するデザインの巨匠の展覧会をご覧いただけるのは、日本国内では今回が最初で最後かもしれません。20世紀はデザインの世紀ともいわれています。100年後には、きっとすばらしく価値のある美術品として世界中の美術館に展示されていることでしょう。新津市美術館に足を運んで100年後には古典となっているはずの、すばらしいデザインの数々をご覧になってはいかがでしょうか。

▼美術館開館時間
臨時休館のお知らせ
午前10時～午後5時（入館四時半まで）
八月二日（月）から十一日（水）まで展示替えのため休館します。

▼休館日
毎週月曜日
（月曜日が祝日の場合は翌日）

▼お問い合わせ
新津市美術館 電話 二五・一三〇

（月曜日が祝日の場合は翌日）

新津市美術館 電話 二五・一三〇